

## 第 16 回消化管 CT 技術研究会に参加して

小樽掖済会病院 平野雄士



2018年6月23日土曜日、第16回消化管CT技術研究会に参加しました。今回はCTCのメッカである名古屋で行われました。なぜ名古屋がメッカかというと、日本でCTCの検査を一番数多く行っている山下病院が近郊の一宮市にあり、積極的にCTCを行っている施設が愛知県にはたくさんあるからです。前回、名古屋で行ったのは2013年の6月で、6年ぶりです。その時は今までで過去最高の参加人数となりました。今回は一般演題も10演題集まり、またもや秘かに盛り上がってきている様子です。

当番世話人の山崎さんによれば今回、北は北海道から南は沖縄まで日本全国から参加者がいて、名実ともに全国規模の研究会になってきたとのことでした。



プログラムは一般演題①から始まりました。亀田総合病院の秋田先生から「上肢体位の違いが臍と各指標の位置関係にもたらす影響」の報告がありました。腹腔鏡下大腸がん手術に用いられる指標に対して挙上、下垂の影響を見た報告でした。毎回新しい視点で検討されていて、とても勉強になります。

次は岡崎市医師会の黒木先生が「大腸 CT 検査におけるタギング有効性に与える因子と対策」を報告しました。因子としては性別、年齢、外気温などを挙げ、摂取水分量、高張液下剤の内服時期の変更により改善がみられたとしており、会場とは夏場の水分減少による影響について議論されていました。北海道の涼しい環境とは少し縁遠い話ですが、暑い地域では影響が大きいのかもしれません。

続いては徳島健生病院の岩野先生がタギングの質と固形残渣量についてコロنفォート、ガストログラフィンを用いて検討した報告です。

コロنفォートを用いた方法はタギングの質は若干劣るものの解析上は問題なく、受容性が高いため選択肢の一つになりうるとしていました。前処置法については現在様々な方法で検討されており、まだ、帰結点は見えていません。前処置薬に対する十分な理解が出来ていないためと思います。標準化を求める声が多いのですが、十分な議論をするためにはもう少し時間が必要でしょう。

次の 2 演題は症例報告の演題で一つは CMSEP、もう一つは CTC における子宮内膜症の特徴についての報告でした。両者とも非常に詳しく病態について解説されていました。

その後、南風病院の渕上先生が「注腸経験者が行う CTC 一次チェック」を講演し、山下病院の末松先生が「タギング症例における一次チェックと問題点」のランチョンセミナーを行いました。両者とも非常にレベルの高い読影で、一次チェック法のお手本となる講演でした。

後半の一般演題②は藤田保健の土井先生が「超高精細 CT を用いた大腸 CT の検出能に関する基礎的検討」を報告しました。バーガーファントムや自作の粘土を使ったファントムの使用により、CTC においても高精細 CT を用いて有効性の高い画像が出てくることを期待させる内容でした。教え子の発表のため藤田保健の辻岡先生も来場し、コメントをして頂きました。次の大原総合病院(?)の鈴木先生の報告では高精細 CT を用いた CTG、CTC において、パーシャルボリウムが軽減され、解像度の高い臨床画像が示されました。ようやく、止まっていた時間が動き始めた感じです。臨床評価もこれからが楽しみです。

次にみたき総合病院の森本先生より、データベースを使用し CTC デ

ータの管理を省力化し、有効活用した報告がありました。データ管理は根気のいる作業なので、参考になります。

さて、ここから先の 2 題の演題はこの研究会において時々起こるぶっ飛んだ報告です。

最初に群馬健康科学大学の山之内先生による「機械学習を用いた基礎研究」についてです。解析手法の CNN を用いて LST の画像検出に挑んだ報告です。今はやりのディープラーニングに繋がる手法ですが、こちら側の理解が足りなく、全くついていけません。指導している小倉敏裕先生は相変わらず先を見ています。さすがです。

次は笠岡第一病院の笹井先生から「大腸拡張法を評価する新たな手法の提案」の報告がありました。インタラクティブグラフを用いて拡張の状態を把握するというものです。何か答えがありそうな気がするが、それが何なのかが難しい。そろそろこの解説も私の知識では限界だということを示しています。しかし、だからこそ面白い。このあたりの研究が好きな方は、当研究会は意外とフィットするので、是非参加してみたいかがでしょうか。

積水メディカル・エーザイセッションでは山下病院の服部理事長より「現状の CTC の問題点と診療放射線技師に求めるもの」の講演がありました。詳細は省きますが、大腸の解剖をよく勉強し、CTC への情熱をもって普及に努める必要性を感じました。

その他、私も久しぶりにお話をさせていただきましたが、省略します。名古屋は「きしめん」もあり、「ひつまぶし」もあり、「矢場とん」もあり、駅前の繁華街はとても盛り上がっていました。北海道も頑張らないと、と思います。


**16th** CT colonography 2018  
 Technologist Meeting **6/23**  
**消化管CT技術研究会 学術集会**

10:30-18:30  
参加費 1,000円

名古屋国際センター ホール

Contents

10:30 - 10:35	開会挨拶	総 司 会	吉川秀司 (大阪医科大学附属病院)
10:35 - 10:40	当番世話人挨拶	代表世話人	坂本 崇 (済生会熊本病院)
10:40 - 11:30	一般演題 ①	当番世話人	山崎通尋 (山下病院)
		座 長	赤井亮太 (刈谷豊田総合病院) 三原嵩大 (東京メディカルクリニック)
1.	上肢体位の違いが膈と各指標の位置関係にもたらす影響	秋田裕介	(亀田総合病院)
2.	大腸CT検査におけるタギング有効性に与える因子と対策	黒木誠司	(岡崎市医師会)
3.	大腸CT検査におけるタギングの質と固形残渣量の検討	岩野晃明	(徳島健生病院)
4.	CT Colonographyで指摘されたCMSEPの一例	村田浩毅	(医療法人尚豊会みたま総合病院)
5.	大腸CT検査における子宮内腺症の特徴について	木下琢実	(一般財団法人倉敷成人病センター)
11:30 - 12:20	講演	司 会	松井大樹 (北福島医療センター)
	共催: 伏見製薬(株)		
	「注腸経験者が行う CTC 一次チェック」	淵脇崇史	(南風病院)
12:30 - 13:10	ランチョンセミナー	司 会	松田勝彦 (済生会熊本病院)
	共催: キヤノンメディカルシステムズ(株)		
	「タギング症例における一次チェックと問題点」	末松誠司	(山下病院)
13:30 - 14:30	講演 種々メディカル/エーザイセッション	司 会	坂本 崇 (済生会熊本病院)
	「現状の CTC の問題点と診療放射線技師に求めるもの」	服部昌志 先生	(山下病院)
14:40 - 15:30	一般演題 ②	座 長	山本修司 (東京工業大学情報生命博士教育院) 平野智之 (川崎市立多摩病院)
6.	超高精細CTを用いた大腸CTの検出能に関する基礎検討	土井裕次郎	(藤田保健衛生大学病院)
7.	超高精細CTによる消化管微細画像診断の可能性	鈴木雅裕	(大原綜合病院)
8.	大腸CT検査におけるデータベースの活用について	森本恵里佳	(医療法人尚豊会みたま総合病院)
9.	機械学習を用いた大腸展開画像上におけるLST検出の基礎研究	山之内佐久也	(群馬県立県民健康科学大学)
10.	大腸CT検査における大腸拡張法を評価する新たな手法の提案	笹井信也	(笠岡第一病院)
15:40 - 17:10	復活!! 全員参加、タブレット企画! 一次チェックの勘所～所見はココで診る～	司 会	小倉敏裕 (群馬県立県民健康科学大学) 鈴木雅裕 (イメディカル東京遠隔画像診断センター)
	企画協力: ザイオソフト(株)		
	共催: アミン(株)	解 説	富松英人 先生 (岐阜大学)
17:20 - 18:20	講演 種々メディカル/エーザイセッション	司 会	高林 健 (北海道消化器科病院)
	「CTC における VGP 画像の意義」	平野雄士	(小樽経済会病院)
18:20 - 18:30	次回当番世話人挨拶	次回当番世話人	山本修司 (東京工業大学情報生命博士教育院)

10:00～17:30 消化管画像診断に関する企業展示ブースを設置します

研究会終了後、恒例の「情報交換会」を開催いたします。

次回第 17 回消化管 CT 技術研究会は平成 30 年 11 月 17 日土曜日東京で行います。当番世話人は山本修司先生です。乞うご期待！